様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年 １０ 月 ２７ 日現在

機関番号：３３９１１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ００１２４

研究課題名（和文）寺院・仏堂を守護する神の展開・変容についての総合的研究―アジア仏教史の視座から―

研究課題名（英文）Comprehensive research on development and transformation of gods who protect temples and Buddhist temples

研究代表者
脊古　真哉（SEKO, shinya）

同朋大学・仏教文化研究所・客員所員

研究者番号：２０４４８７０７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：４年間にわたって東海地方・近畿地方をはじめとする各地の寺院・神社・仏堂での行事・儀礼・芸能を調査してきた。それぞれの行事の中での神の位置付けについて比較検討してきた。特に新春行事として実施されることの多い田遊び（水田稲作の予祝儀礼）について多くの事例について調査することができた。
　また、各地の行事等に関する文字史料についての調査も多く実施することができた。あわせて行事の伝承者からの聞き取りを行い、それぞれの行事・儀礼・芸能に関わる神についての過去と現在に関しての多くのあらたな知見を得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　今回の研究は、2020年度以降、新型コロナウイルス感染症の流行により、当初予定していた調査・研究が実施できない状況が出来することとなった。一方、このような状況であるからこそ、行事・儀礼・芸能の変容と継承といった問題を、通常では顕在化しないレヴェルで観察・調査することもできた。なぜ、行事・儀礼・芸能は創められ、廃絶し、変容するのかと、いった事象をより鮮明に観察することも可能であった。そして、そこでの神のあり方をあらためて問い直すことができた。

研究成果の概要（英文）：　For four years, I have researched events, rituals, and performing arts at temples, shrines, and Buddhist temples in the Tokai and Kinki regions. I have compared and examined the position of God in each event. In particular, we were able to investigate many cases of taasobi (pre-celebration ceremony for paddy rice cultivation), which is often carried out as a New Year's event.
　In addition, we were able to conduct many surveys on written historical materials related to events etc. in various places. At the same time, we conducted interviews with people who inherited the event, and were able to obtain a lot of new knowledge about the past and present of the gods involved in each event, ritual, and performing art.

研究分野：日本宗教史・民俗宗教研究

キーワード：神仏交渉　鎮守神　伽藍神　護法神　修正会　田遊び　田楽

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

①寺院・仏堂を守護する神については、神仏交渉史の分野を中心に多方面から調査・研究がなされてきている。日本の神仏習合については、戦前の辻善之助、戦後の村山修一らの研究では、世界宗教たる仏教と日本の固有の神信仰との接触・融合の問題として取り上げられ、日本の国内的な視点のみで扱われてきた。一方、近年、吉田一彦らによって神仏習合は日本に伝来した中国の仏教に既に内在していたとの理解が示され、国内外でアジア東方を視野に入れた研究が参加となってきている。一国史観の克服は重要な視角であるが、現状では多くの場合、この立場からの研究は構想先行で実証性な欠ける憾みも否めない。

②このような研究状況の中で、いま求められているのは、新たな視点を持った研究である。もはや神仏習合を日本独自のものとはできないように、本研究でも一国史的視点の超克を目指しているが、日本の神仏習合を中国仏教の焼き直しとする単純な理解の限界も明確である。中国や朝鮮半島には、日本の初期の神仏交渉の代表的な現象である「神宮寺」といったものは存在しない。また、日本の神仏交渉の到達点の１つである在来の神と仏教の尊格を統合する本地垂迹説の広範な適用も中国をはじめ他の地域では見られない。これに対して仏法・寺院を守護する伽藍神・鎮守神は、中国の各時代のあり方が日本の各宗派・寺院に複層的に伝存しているという事実がある。本研究で寺院・仏堂を守護する神を取り上げるのは、この点に着目したからであった。日本の宗教史をアジア仏教史の視座から考察するには格好のテーマであると判断したからである。

２．研究の目的

①本研究の特色および独創性は、これまでの研究代表者・分担者の日本文化・日本宗教に関する研究蓄積に立脚し、日本国内だけではなく、広くアジア仏教史の視座から、寺院・仏堂を守護する神、行事・儀礼の場に勧請される神の展開と変容に関する総合的かつ体系的な研究を実施し、新たな宗教史の構築をめざすことにある。一方、集落の仏堂とその行事に着目するように、広範な視座だけではなく、在地に密着した視点からもこの問題を追究しようとするものである。また、専門分野を異にする研究者による共同研究であるので、時代的には古代から現代まで、あつかう資料も文字史料だけでなく、美術資料・民俗資料や建造物・儀礼空間など、幅広い史料・資料の調査・研究を個別の学問分野を統合する形で実施できる点が本研究の大きな特色であり、きわめて意欲的な課題といえる。

②個別の学問領域を統合するとともに、比較史的な研究手法をも取り入れ、多元的な視点より、宗派史・教団史の枠組みを超えての新たな日本宗教史・思想史・文化史を構築することが本研究課題の最終的な目的なのである。

３．研究の方法

①本研究では、文字史料・美術資料・建造物資料を博捜して、各時代・各地域の寺院・仏堂に付随する神の事例を集積することである。奈良時代後期からの神仏交渉の中で、神宮寺の建立、続いて各寺院の地主神・鎮守神の設定が見られた。このことは平安仏教の天台宗・真言宗の寺院でも同様であり、地主神・鎮守神は中世以降の禅宗・浄土宗などの新仏教の寺院にも少なからず継承された。日本仏教の時代を超えて変わらない特質の１つとも言える点である。これまでに確認・調査してきた寺院・仏堂の事例に加えて、古代寺院から新仏教寺院、仏堂（村堂・草堂）にいたるまでの寺院・仏堂に付随する神の事例をなるべく多く集積してデータベースを構築して、寺院・仏堂に祀られる神の時代性・宗派性・地域性を解明する。

②寺院・仏堂で行われる法会に着目し、そこに現れる神の由来とその歴史的変遷を探り、行事・儀礼の中での位置付けを明らかにすることである。修正会・修二会の新春行事をはじめとして、寺院・仏堂の行事では付随する神に対する儀礼が実施されることがある。特に三河・信濃・遠江国境地域では、仏堂での修正会系行事に際して、ガランサマと称される境内の小祠に対して献饌、芸能の奉納などが見られる。このガランサマは中国東晋時代の訳経『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪経』第４に見える 18 種の「護僧伽藍神」に由来するものと判断できるが、かかる神が日本社会にいかに定着したのかが問題となる。今回の研究では、修正会系行事が稠密に伝承されている和歌山県の高野山麓および有田川上・中流地域、兵庫県の播磨地域の寺院・仏堂の行事を実見調査し、すでに一定の成果を得ている東海地方、滋賀県の湖北地域の寺院・仏堂で行われる法会の事例と比較して、それぞれの神々の特質を歴史的文脈のなかに位置づけたい。

③ひろくアジア仏教史の視座からの寺院・仏堂に付随する神についての広範な見通しを得ることである。アジア東方へと伝わった仏教は、当然のことながら、インド起源・仏教起源の神々に対する信仰を内在するものであった。これらの神々は明王・天部として受容され、日本で本格的な寺院が建設されるようになった当初は、中国と同様に、これらの神々が仏法・寺院を守護するものであった。やがて、日本では多くの在来の神が護法神・鎮守神・伽藍神として祀られるようになる。中世には、多数の入宋僧・入元僧・渡来僧によって、中国近世の各種の伽藍

神が齎された。これら新来の伽藍神は中国在来の神で、日本の伝統的な神仏習合の世界とは一線を画したかたちで、主として禅宗の内部での受容に止まったとされる。また、江戸時代には黄檗宗を通じて明末･清初の段階の伽藍神である華光菩薩が受容された。ここで解明すべきは、各時代における神々の日本社会のなかでの位置づけとその歴史的変遷である。さらには、日本での仏教と神との関係全般や、ティベット仏教寺院の場合など、ひろくアジア東方の事例をも踏まえて、日本における寺院・仏堂と神との関係の特質を解明することを目指した。

④史料調査・現地調査は可能な限り、研究代表者・分担者全員が参加することとし、調査事例・史料・資料についての認識を共有することができた。

４．研究成果

本研究では､研究期間内に新型コロナウイルス感染症の流行という想定外の事態により､2020年度以降、当初予定していた調査が実施できなかったことがあり、少なからず当初の予定を変更せざるを得ないこととなった。このような状況下で多くの調査対象に関わる人々の協力を得て、寺院・仏堂を守護する神に関わる事象を通常では顕在化しないレヴェルで観察・調査することもできた。

①なぜ、行事・儀礼・芸能は創められ、変容し、廃絶するのか、といった事象を具体的な事例（名古屋市中村区の七所社の「きねこさまつり」、愛知県豊川市の財賀寺の「お田植祭」等）について、調査・研究することができた。

②東海地方・近畿地方の神社・寺院・仏堂を対象とする水田稲作の模擬行為であり、予祝儀礼である田遊び（御田）について、これまでの調査実績に加えて、数多くの調査を実施することができ、田遊びの主な演者である「穂長の尉」と「福太郎」の存在、子供の人形の登場などの要素を切り口として、近畿・東海地方の源流は中世後期に遡る「古典的」な田遊びの成立・伝播に関する見通しを得ることができた。

③現在の愛知・長野・静岡の県境地域である三河・信濃・遠江国境地域の仏堂に付随して祀られ、仏堂の行事に際して献饌や芸能の奉納の見られる伽藍神・ガランサマの来歴・由来について、中国の中世仏教から、日本の顕密仏教、そして民俗宗教への流れ、道筋を明らかにすることができた。脊古「ガラン神考―三河・信濃・遠江国境地域から見た神仏交渉史の一断面―」(吉田一彦編『神仏融合の東アジア史』名古屋大学出版会　2021年)。

④神仏習合の世界とは縁遠いものとされることの多い浄土真宗について、戦国期の教団形成以前の初期真宗門流の視点から、神仏交渉をも含めた日本宗教史の問題として考察することができた。同朋大学仏教文化研究所編『親鸞・初期真宗門流の研究』(法蔵館　2023 年　脊古真哉および藤井由紀子の論考を掲載)。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計11件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 脊古真哉・藤井由紀子	４．巻 41
２．論文標題 行事・儀礼・芸能の変容と継承―共同研究「寺院・仏堂を守護する神の展開・変容についての総合的研究」の成果から―」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 同朋大学仏教文化研究所紀要	６．最初と最後の頁 横書1　42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 曽根原理著・寵娜訳	４．巻 32
２．論文標題 豊臣秀吉・徳川家康的神格化与「徳川王権論」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 日本学研究（北京日本学研究中心）	６．最初と最後の頁 65　80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 藤井由紀子・川口淳・中川剛・日比野洋文	４．巻 41
２．論文標題 西厳寺蔵「小川貫弌資料」調査報告（六）	５．発行年 2022年
３．雑誌名 同朋大学仏教文化研究所紀要	６．最初と最後の頁 13　26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 脊古真哉	４．巻 40
２．論文標題 田遊びと修正会が出合う場（下）―近畿・東海地方の田遊びの中での高野山周辺地域の修正会と御田―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 同朋大学仏教文化研究所紀要	６．最初と最後の頁 9　41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 脊古真哉	4．巻 821
2．論文標題 聖徳太子信仰と真宗	5．発行年 2021年
3．雑誌名 ともしび	6．最初と最後の頁 1　9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 黒田龍二	4．巻 687
2．論文標題 八坂神社本殿の形成とその特質	5．発行年 2021年
3．雑誌名 月刊文化財	6．最初と最後の頁 4　5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤井由紀子	4．巻 40
2．論文標題 西厳寺蔵「小川貫弌資料」調査報告（五）	5．発行年 2021年
3．雑誌名 同朋大学仏教文化研究所紀要	6．最初と最後の頁 109　120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 脊古真哉	4．巻 39
2．論文標題 田遊びと修正会が出合う場（中）―天野社と高野山周辺地域の修正会と御田―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 同朋大学仏教文化研究所紀要	6．最初と最後の頁 1　33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 曽根原理	4．巻 7
2．論文標題 阿部次郎の東北帝国大学赴任と狩野亨吉	5．発行年 2020年
3．雑誌名 東北大学附属図書館調査研究室年報	6．最初と最後の頁 13　18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 黒田龍二	4．巻 6
2．論文標題 建築と祭儀から見た賀茂社本殿の意義	5．発行年 2020年
3．雑誌名 神社史料研究会叢書	6．最初と最後の頁 33　48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 上島享	4．巻 15
2．論文標題 密教修法の後世・特質と中世寺院社会―孔雀経法を通して―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 龍谷大学アジア仏教文化研究叢書	6．最初と最後の頁 235　271
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　3件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 脊古真哉
2．発表標題 日本古代の神仏交渉史―本地垂迹説の萌芽・発端・普及―
3．学会等名 愛知学院大学大学院講演会（招待講演）
4．発表年 2021年

１．発表者名 黒田龍二
２．発表標題 建築史からみる大御堂の歴史的意義
３．学会等名 中世歴史シンポジウム（岡山県真庭市）（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 黒田龍二
２．発表標題 神社・神祇・神仏の視点から
３．学会等名 建築史学会大会記念シンポジウム「＜和様＞建築の再検討」（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 上島享
２．発表標題 日本中世の神と仏
３．学会等名 2021年度京都大学文学研究科・文学部公開シンポジウム「ユーラシアにおける宗教遺産研究の可能性―伝播と融合―」
４．発表年 2021年

１．発表者名 曽根原理・朴澤直秀
２．発表標題 シンポジウム「作られた近世仏教イメージを見直す」趣旨説明
３．学会等名 第19回日本仏教綜合研究学会学術大会
４．発表年 2020年

〔図書〕　計5件

1．著者名 菅野成寛・上島享ほか	4．発行年 2020年
2．出版社 吉川弘文館	5．総ページ数 206
3．書名 平泉の仏教史	

1．著者名 橋本政宣・黒田龍二ほか	4．発行年 2020年
2．出版社 思文閣出版	5．総ページ数 237
3．書名 賀茂信仰の歴史と文化	

1．著者名 吉田　一彦、上島　享	4．発行年 2020年
2．出版社 吉川弘文館	5．総ページ数 344
3．書名 日本宗教史を問い直す	

1．著者名 上島　享、吉田　一彦	4．発行年 2021年
2．出版社 吉川弘文館	5．総ページ数 358
3．書名 世界のなかの日本宗教	

１．著者名 吉田 一彦、曾根 正人、荒見 泰史、髙井 龍、高志 緑、水越 知、藤原 崇人、大西 和彦、松本 浩一、二階堂 善弘、高橋 早紀子、脊古 真哉、松尾 恒一、関山 麻衣子、上島 享、伊藤 聡	４．発行年 2021年
２．出版社 名古屋大学出版会	５．総ページ数 726
３．書名 神仏融合の東アジア史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	曽根原　理 (Snehara satoshi) (30222079)	東北大学・学術資源研究公開センター・助教 (11301)	
研究分担者	黒田　龍二 (Kuroda ryuji) (40183800)	神戸大学・工学研究科・名誉教授 (14501)	
研究分担者	藤井　由紀子 (Fujii yukiko) (40746806)	同朋大学・仏教文化研究所・所員 (33911)	
研究分担者	上島　享 (Uejima susumu) (60285244)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関